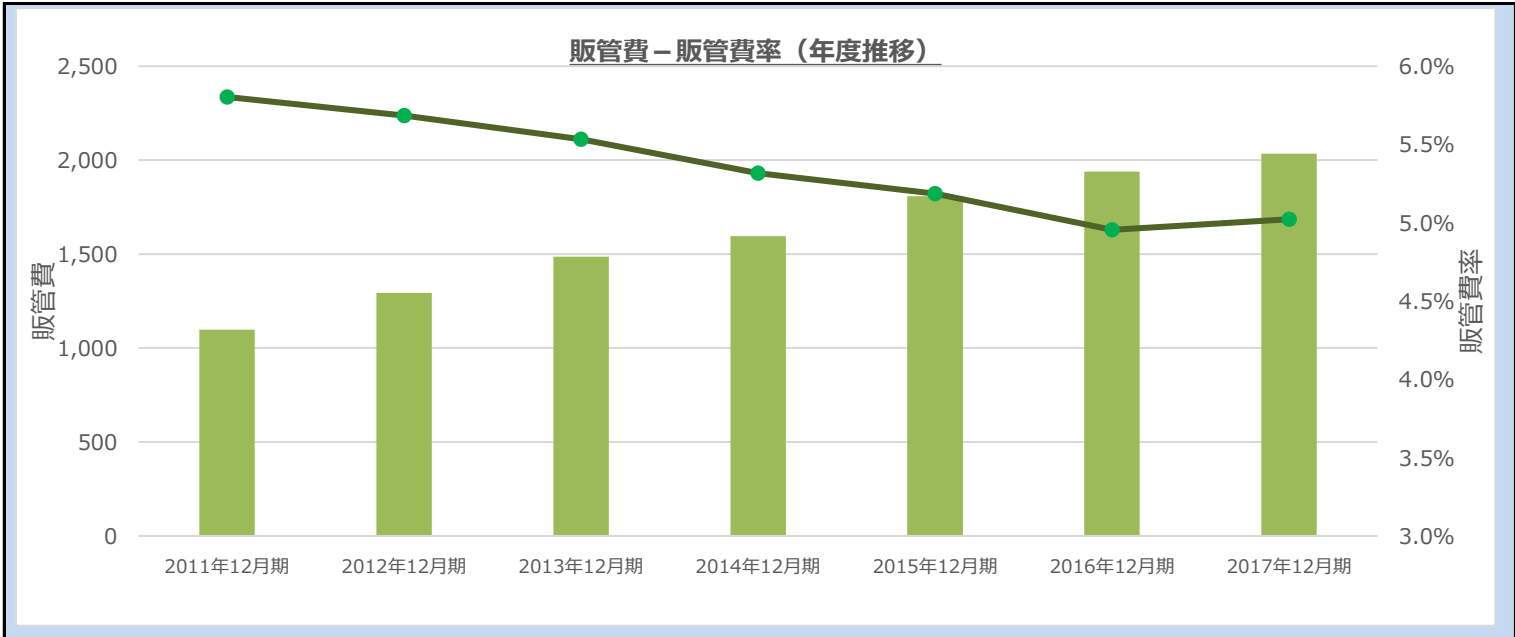
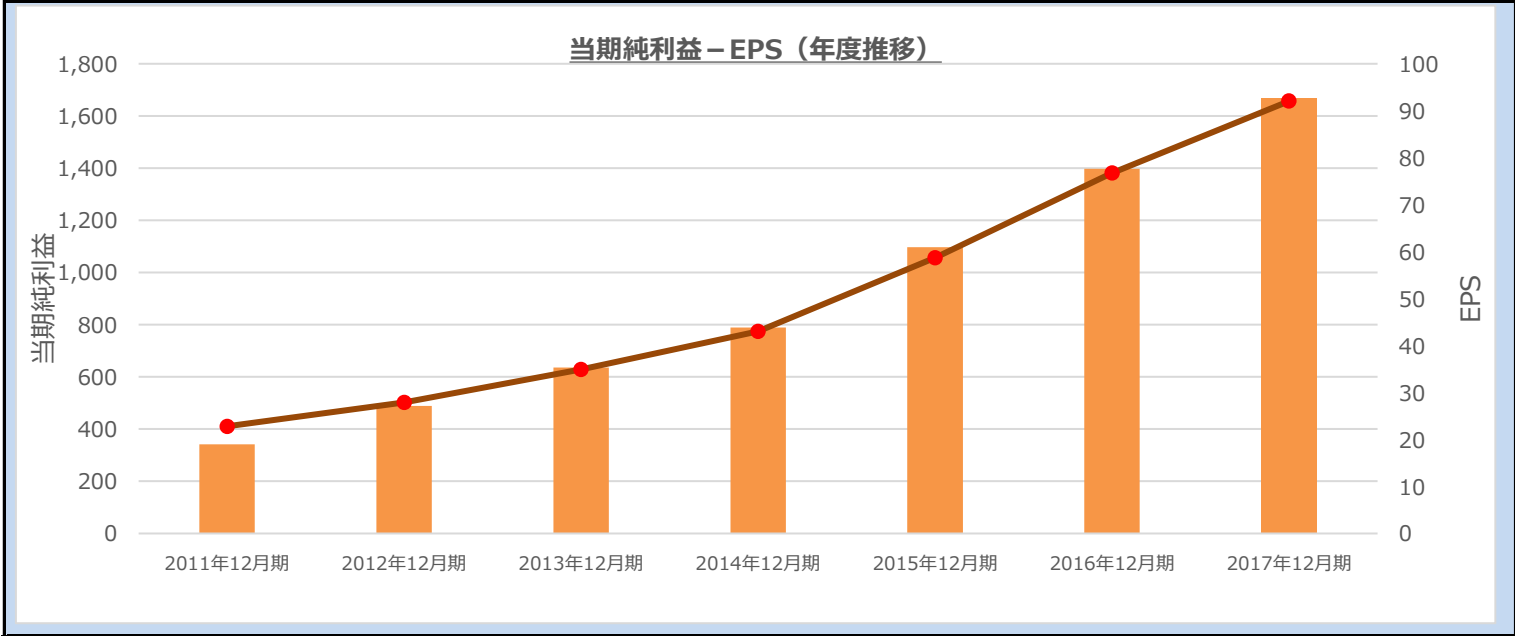


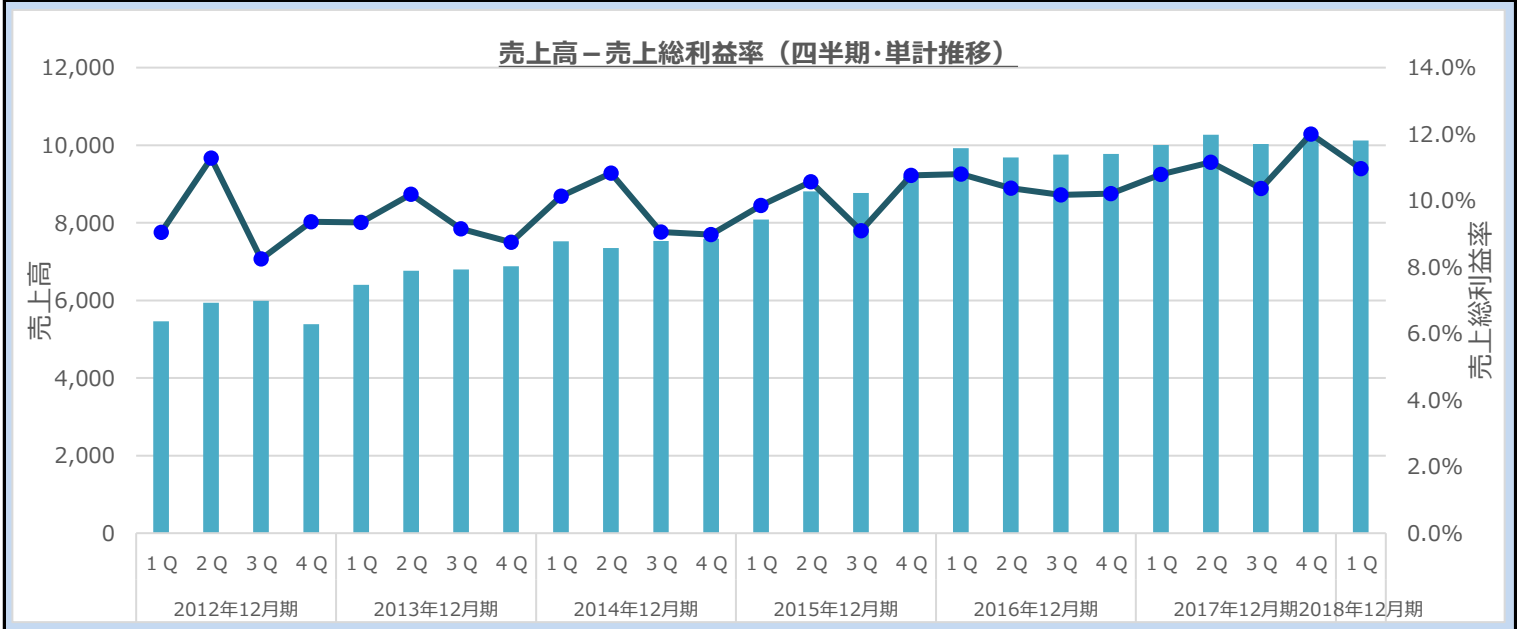
売上は安定的に成長基軸が継続していると共に、粗利率も安定かつ若干ではあるが右肩上がりに推移している。



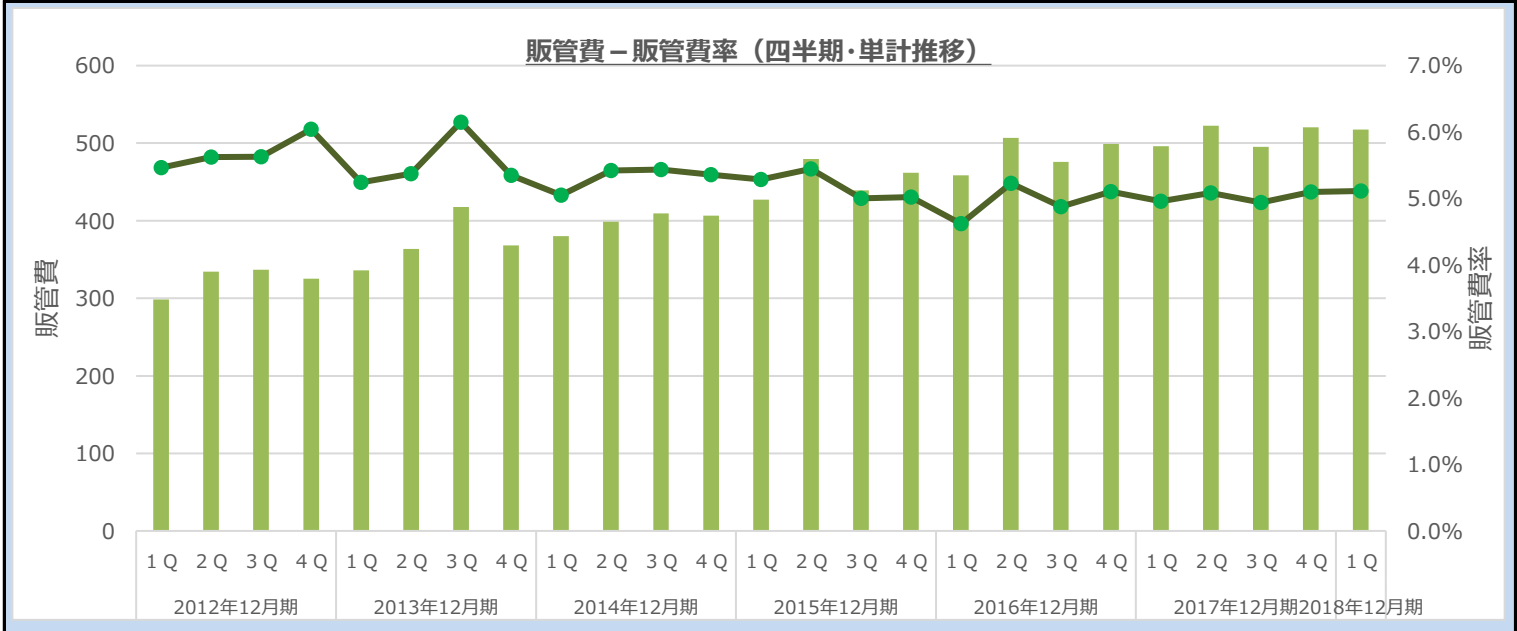
事業の成長に伴って販管費は増加トレンドであるが、販管費率は右肩下がりに推移しており、効率的な販管費支出を実現している。



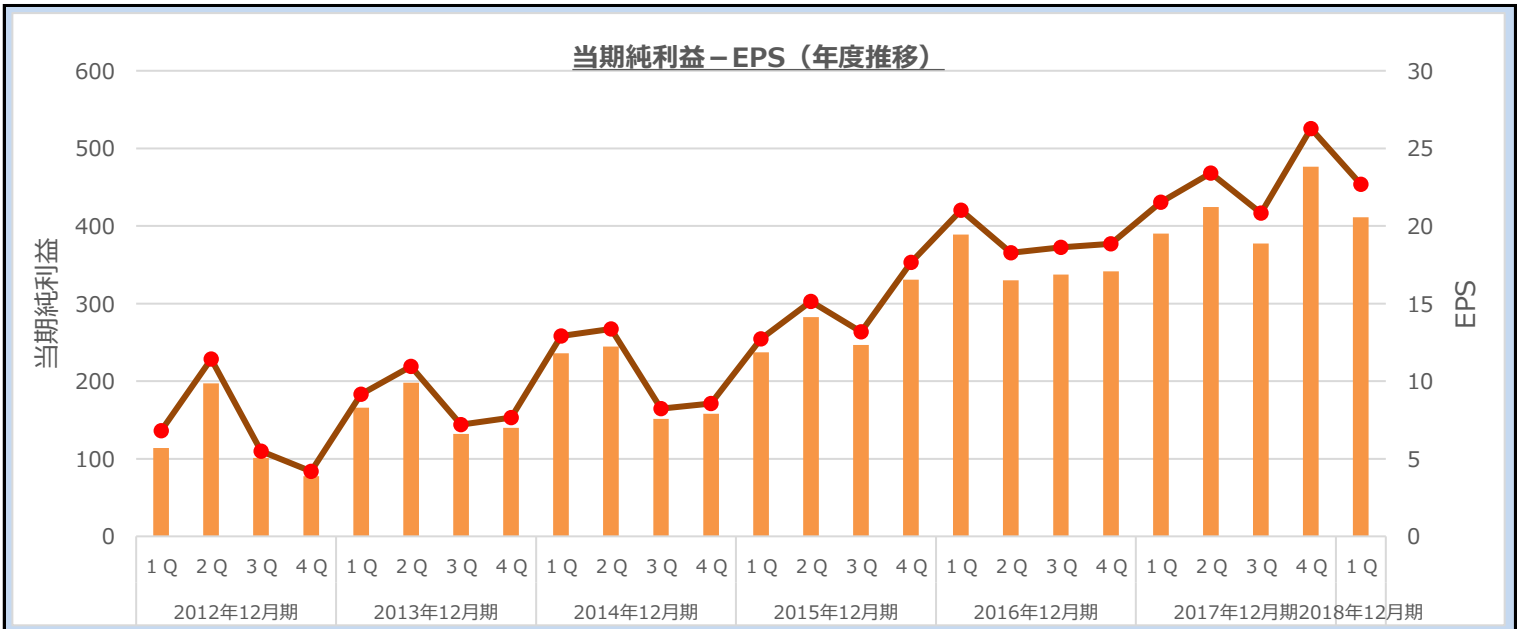
当期純利益、EPS共に20%程度の安定成長を実現出来ている。今後3年は15%成長程度にややマイルドとなる見込み。



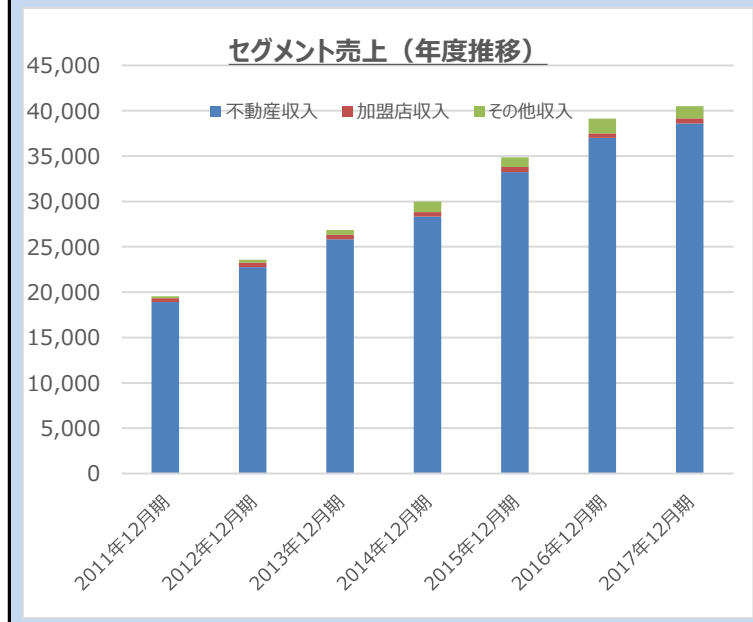
管理物件への入居促進などが繁忙となることから1Qに収益が集中する傾向がある。



1Qの各種促進のため、全社的に1Qは収支計上が変調する兼ね合いで1Q期間では販管費率が向上する。

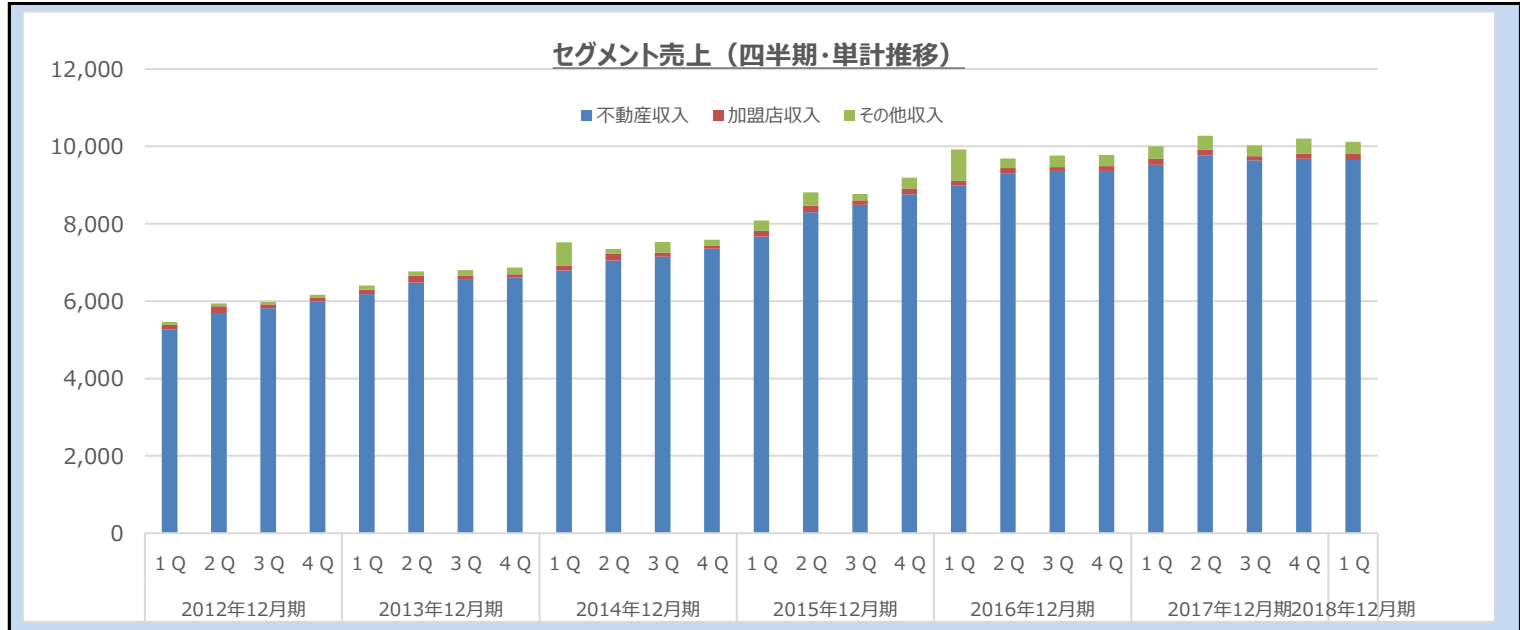


利益水準は季節的要因は特筆すべき事項はない。年度推移でわかる通り、右肩上がり推移。



非開示

不動産収入が圧倒的。その他収入として自己勘定の売買成立の有無によって薄く計上。加盟店収入は薄くほぼ無視可。

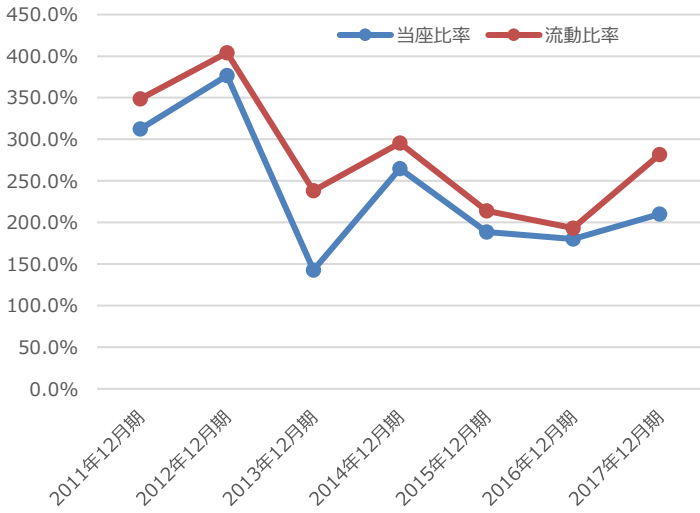


年度推移記載と同トレンド。直近で不動産収入が頭打ちか。

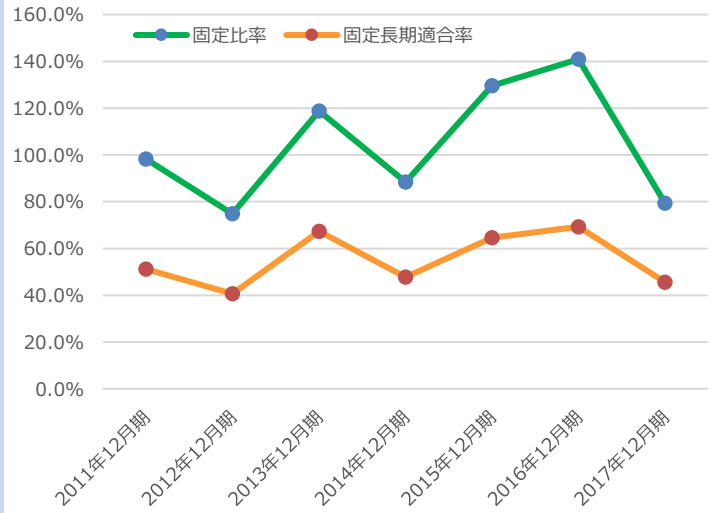
非開示

セグメント利益は非開示。

流動比率/当座比率の推移

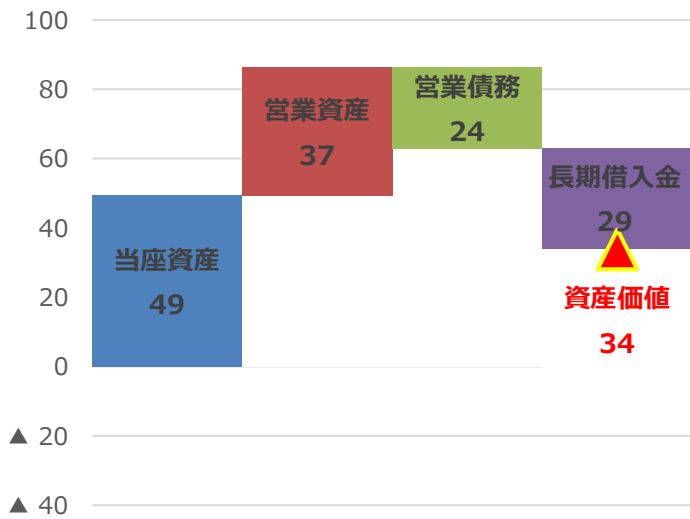


固定比率/固定長期適合率の推移

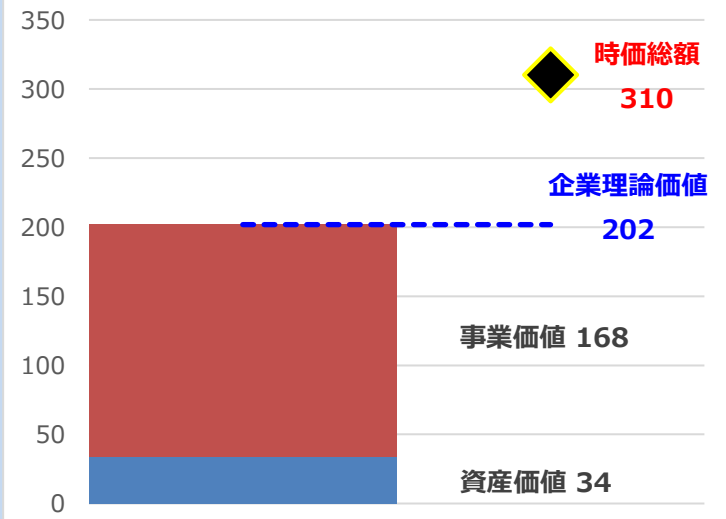


当座/流動比率共に高水準で問題なし。固定比率は業種的に100%超も、固定長期適合率が安定して100%を下回って推移。安全性は問題なしと判断。

資産価値の概況

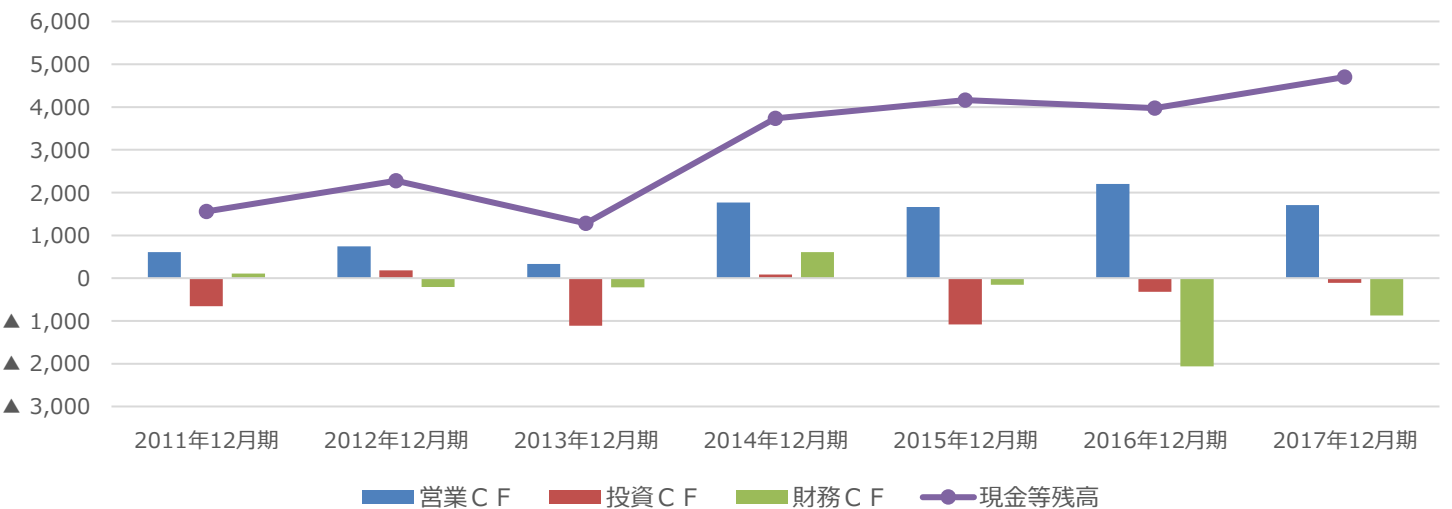


企業理論価値の概況

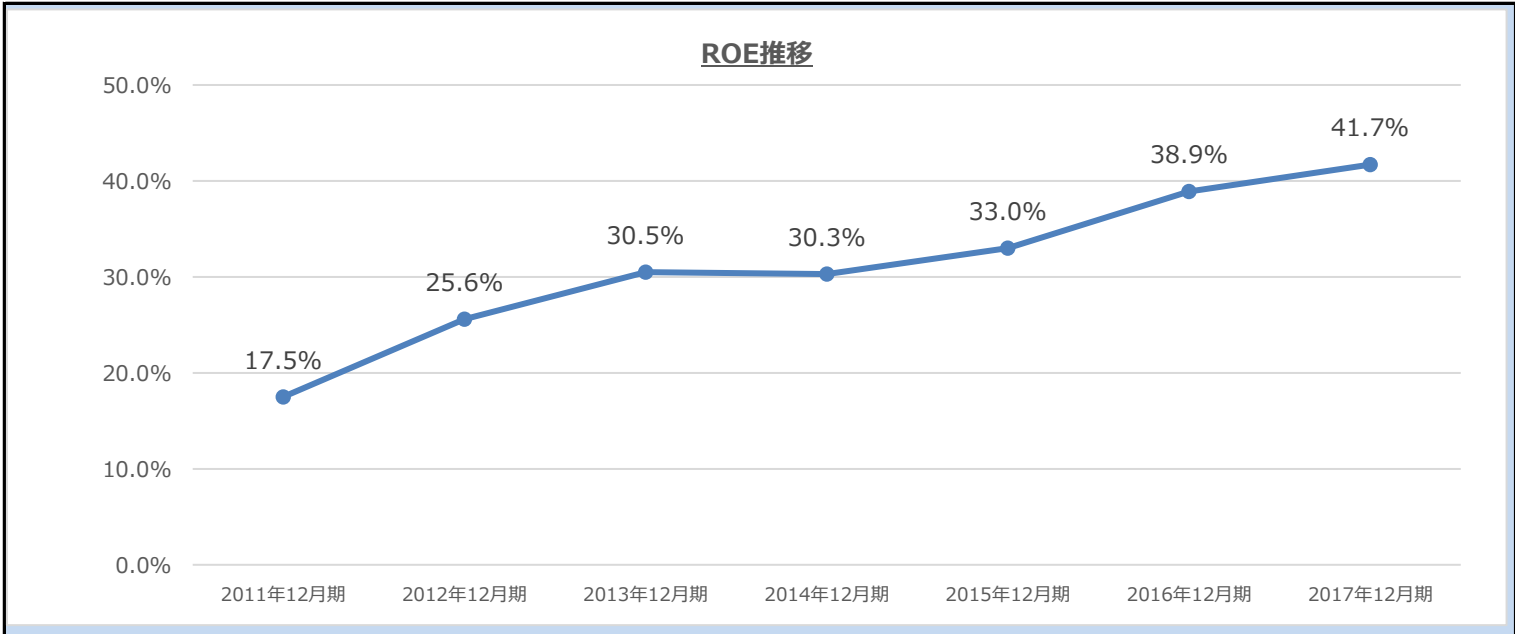


現状の資産価値、事業価値に対し、足元の時価総額は評価されている。非財務の価値をどこまで評価するかで判断が変わるバリュエーション。

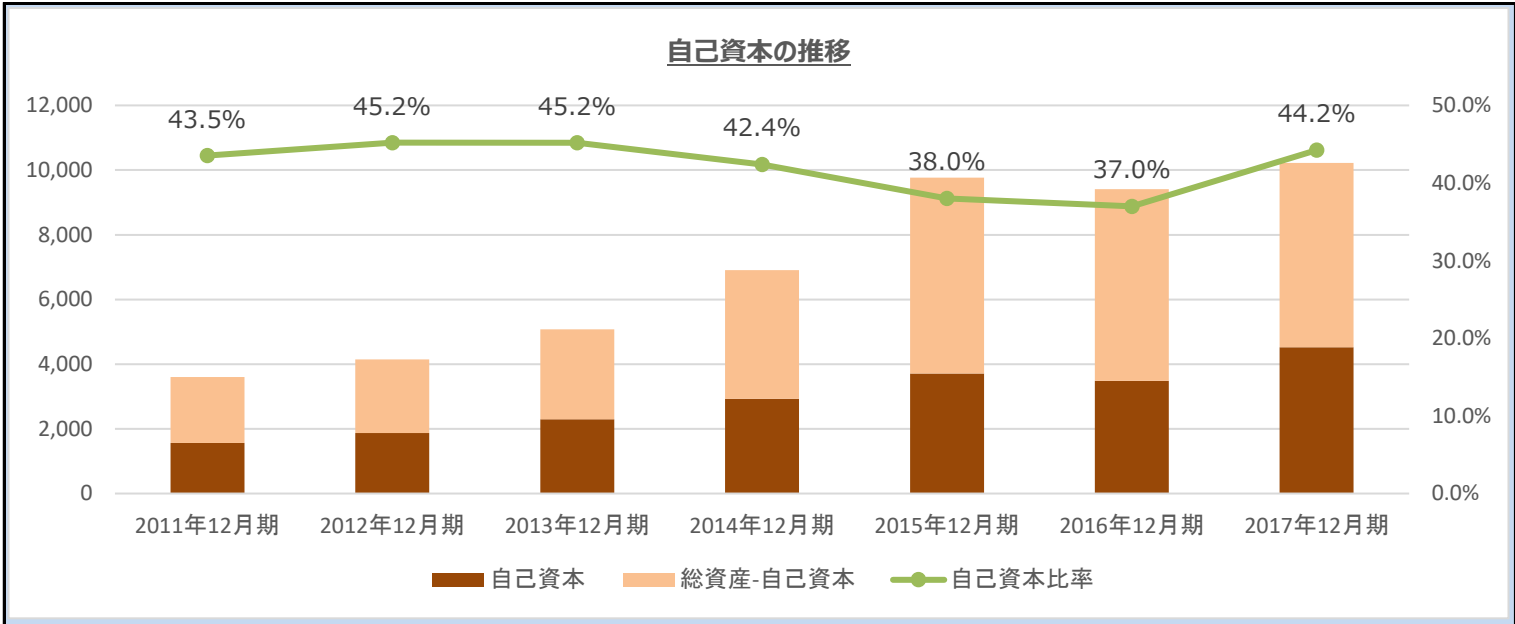
キャッシュフローの概況



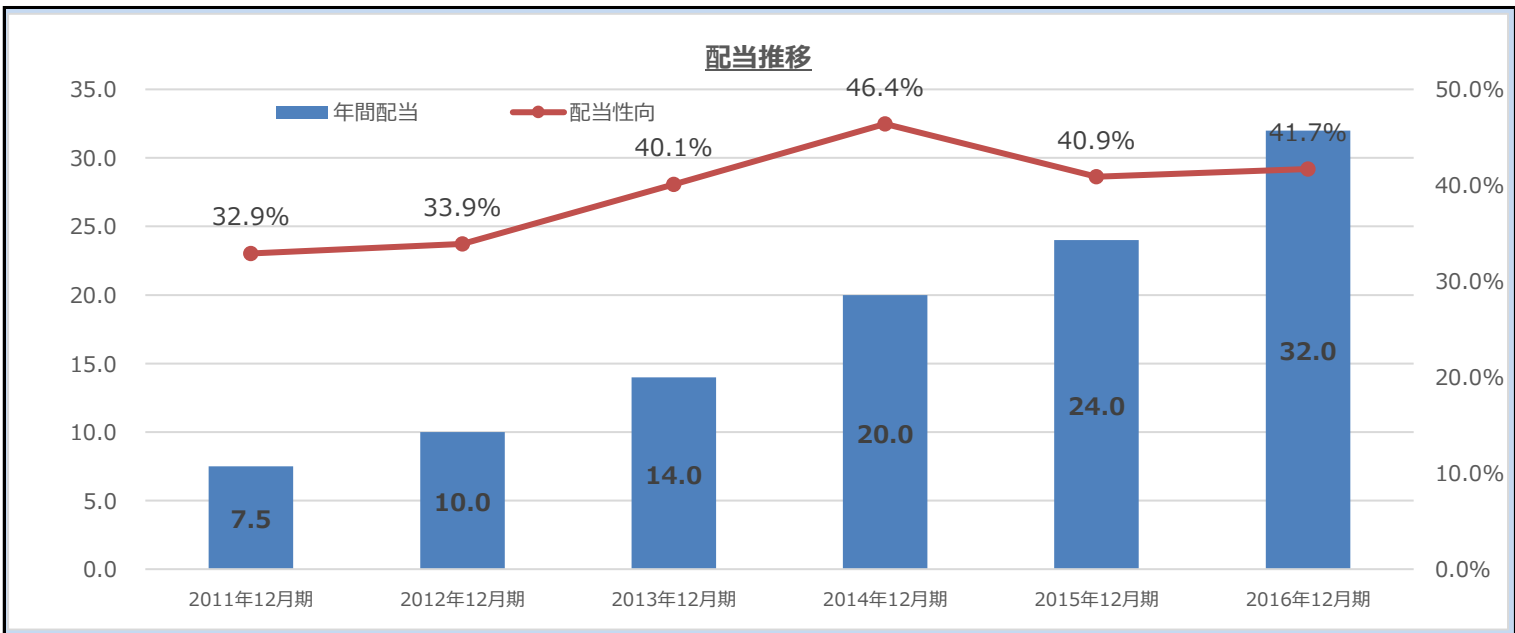
現金推移も安定的に推移しており懸念はない。物件ストックの仕入（MA含む）に応じて投資CF支出が期によって発生。



ROEは安定的に右肩上がりで推移。レバレッジが多少かかっている影響もあるが、それを差し引いても高水準。



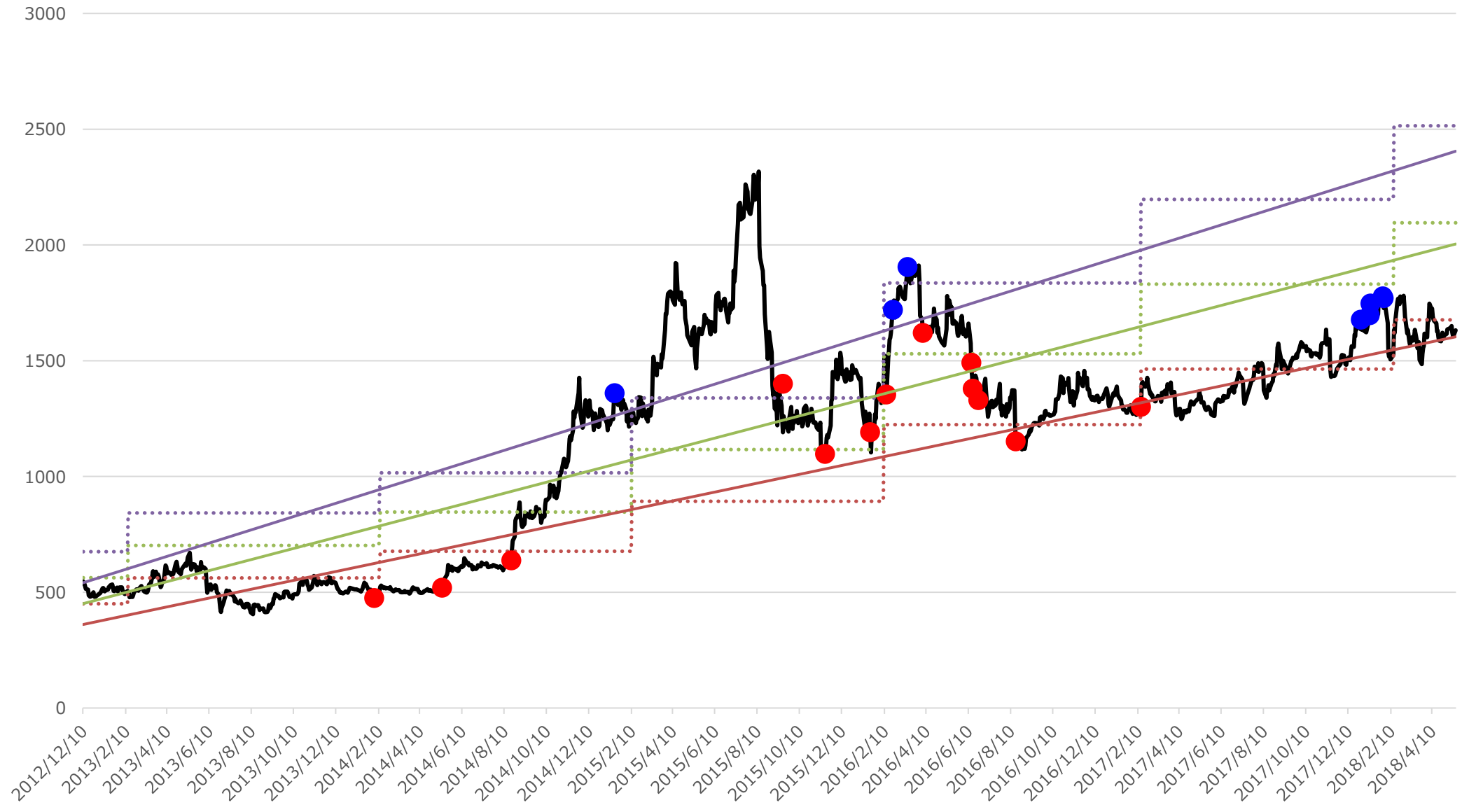
自己資本比率は40%前後で安定的に推移。自己資本は利益成長と共に配当と内部留保のバランスを見ており妥当なトレンド。



配当性向は40%水準を最低ライン。利益成長継続につき、増配も継続。長期的魅力度向上のため、安定配当を基本方針。

3276 日本管理センター 株価推移

— 株価 ····· PER 16 ····· PER 20 ····· PER 24 ● 買 ● 売



概ねPER16-24倍の範囲で推移しているものと認識。直近の売りはPER20倍前であるが、ポートフォリオ全体の現金比率の兼ね合いから一部売却を直近実施も、再び下値圏に接触。